

仙台市立作並小学校



校長室だより

第4号

やさしい子

かしこい子

たくましい子

平成29年10月13日

第2学期始業式 言葉の使い方を考えよう

2学期がスタートしました。始業式では人権作文コンクールで優秀賞を受賞した福島県の小学5年生の作文を紹介しながら次のようなお話をしました。

今日から2学期の始まりです。新しい気持ちで、新しい一歩を歩み出しましょう。2学期に使い方を考えてほしいことについてお話します。それは、言葉です。言葉は、口に出して話したり、文字に書いて使ったりします。言葉にすると、誰かに何かを伝えることができるとても便利で大切なものです。でも、使い方を間違えると相手にうまく伝わらないことがありますね。皆さんは、うまく伝わらなかったことはありませんか。では、福島県の小学5年生が書いた作文を紹介します。

私は、言葉は人を傷つけもするし、幸せにすることもできるものだと思います。よく考えて使い、みんなが幸せになればよいと考えています。

母の日に「いつもありがとう。」と感謝の気持ちを込めて伝えました。母はとてもうれしそうにしていました。そのうれしそうな顔を見ていると、私まで幸せになりました。

言葉は人を幸せにしてくれます。

逆に、こんな体験をしたことがあります。私はアトピーという皮膚の病気のため、顔が赤かったり、手がかさかさしたりしています。以前友達に「手、おぼあちゃんみたい。」とか「酒飲んでよっぱらった人みたい。」と言われたことがあります。たいてい笑ってごまかしますが、本当はとても傷つきます。言った友達は、私を傷つけようと思って言っていない様子ですが、それでも私はいやな気持ちになってしまいます。

言葉は、人を傷つけてしまいます。

テレビを観ると、世の中では、もっとひどいことが起きています。それは、言葉によるいじめです。心ない言葉による残念なニュースがひんぱんに飛びこんできます。例えば、仲のよい友達グループで仲間はずれが起き、ひどい言葉の暴力のため、仲間はずれになった子が自殺してしまったという事件を観ました。相手を傷つけようと思わない言葉でも心を痛めることがあるのに、相手を傷つけようと思って発した言葉は、きっと何倍も何倍も重く、こわいものなんだろうと想像しました。いじめられた子は、私が思っているより、とつてもつらかったと思います。

言葉は、最悪の場合、人の命をうばってしまう恐ろしいものなんだと思いました。このようなことから、言葉は、つかい方しだいで人を幸せにもするし、傷つけたりもするものなのだと考えました。私は、人を傷つける言葉をつかいたくはありません。幸せにする言葉をたくさんつかい、家族や友達と話すときには、相手に対して自分が言われたらどう思うかを考えたいです。相手の心も、自分の心も傷つけないように気をつけたいと思います。

毎日つかう言葉。人の心を動かす言葉。世の中の人々が、相手を思いやった言葉をつかえばみんな幸せになり、いじめの問題も解消していくのではないかと思います。

皆さんも、言葉の使い方をよく考えて、みんなが幸せで安心して生活できる作並小学校をつくっていきましょう。